

「私たちが囚われ、縛られがちなアレコレ」

●講師紹介

高部 大問 氏

1986年大阪生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、株式会社リクルートを経て、現在は多摩大学にて大学生のキャリア支援課に従事しています。

和田 由紀 氏

1984年生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、株式会社ゴールドマンサックスを経て、現在は Mellia 株式会社の代表取締役を務めています。



●講演内容

冒頭では、高部さん、和田さんともにご自身の生い立ちや成功・失敗談を通して、現在の人生観や思考・判断基準を形成するまでに至った経緯をお話しいただきました。

次に、事前アンケートから見えた大宮開成生が抱く“漠然とした不安”の正体が、「人間関係はうまくいくべき、モチベーションは維持すべき、不安や悩みは排除すべき、失敗はしないべき」といった“暗黙の前提”から生み出されているものであるという考えから、今回の講演は『私たちが囚われ、縛られがちなアレコレ』と題して、『“アレコレ”の吟味』、『最も囚われがちな「やりたいこと」』という2つのテーマに関してパネルディスカッション形式で進行していただきました。また、それぞれのテーマに関して質疑応答の時間を設け、生徒一人一人の疑問にも丁寧にお答えいただきました。

① “アレコレ”の吟味

学歴、モチベーション、生きている意味、自信は「あるべき」かについてお二人の意見をいただき、まとめとして和田さんの“自分の軸を持ちながら、フットワーク軽く、柔軟に、波に乗る！”という言葉と計画的偶発性理論が紹介されました。

② 最も囚われがちな「やりたいこと」

目標・目的地までの道のりとして、逆算型、加算型という2つの取り組み方を紹介していただきました。高部さんの“たとえまわり道であっても頑張ったことは血肉になり、巡り巡って生きてくる場がある”という言葉が印象的でした。

今回の講演全体を通して、「やりたいことはなくても、やりたい方法はあるだろう。そこからやりたいことが見えてくる。」、「意味づけは後付けであり、やってみてからわかること。」、「1日1日にベストを尽くすことが何より重要。」、「自信・自己肯定感がないからこそ頑張れる。」、また一方で「自信はあったほうが良い。必要不可欠。」といったように、お二人の中で違った意見がありながらも説得力のある言葉は、不安を抱えている生徒たちに強く響いていました。生徒たちは社会では自分の意見を発信することが大事であり、他者の意見を受け入れる柔軟性も求められ、多様性が許されることを学び取り、勇気づけられている様子に見えました。

講演感想文

- ・今は受験勉強をしながらも、自分の将来について考え始めなければならない時期なので、色々不安がありましたが、お話を聞くことで不安が解消されたので、とても感謝しています。
- ・発言できる人が求められる。思ったことは薄めずに言うべき。というお話を受けて、自分は人に気を遣ってしまいがちで、自分の意見を遠回しにしがちだったのですが、気を遣うこととはつきり意見をすることは違うことだと気付きました。
- ・和田さんの“自分のしたいことに積極的に取り組むことを臆さない”というのが個人的にとっても響き、不安を抱えている私には純粋に羨ましく、それを実現できるようにもっと自信をつけようと思いました。自分の軸を見つけられるようにこれから社会人になるまでにいろいろなことに挑戦したいと思いました。
- ・今までの講演の中で一番素直に受け入れられました。本当にありがとうございました。